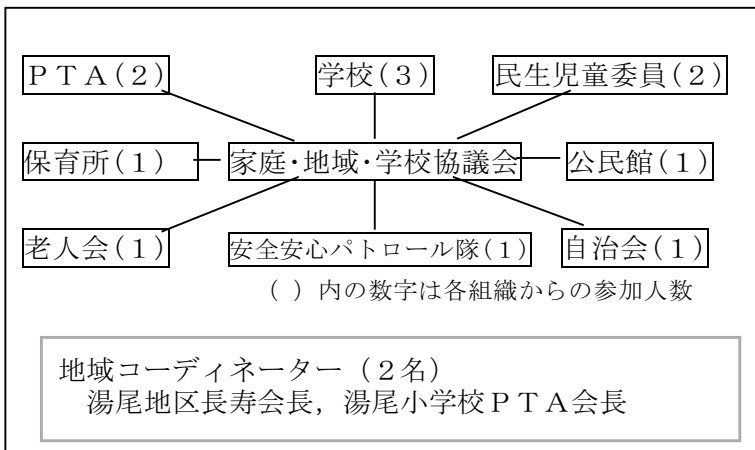


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 年間3回開催
- 第1回(6月27日)
- ・趣旨説明
 - ・スクールプラン
- 第2回(11月16日)
- ・教育活動
 - ・地域との連携
- 第3回(2月22日)
- ・今年度の学校評価
 - ・来年度に向けて

(3) 協議会における成果と課題

- ・スクールプラン・教育活動の実際・学校評価について話し合う中で、地域を生かした教育について考え、来年度につなげることができた。
- ・登下校時の見守り活動について気付いたことを出し合い、家庭・地域・学校の連携について確かめることができた。
- ・学校の環境整備や行事の見直しについての共通理解を図ることができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域コーディネーターと学校が連携して、児童の体験活動に地域の方々を講師として招聘し、米づくりの実際、PRや販売の仕方等を学習するとともに、湯尾地区の古い歴史にも触れつつ、ふるさとへの愛着や感謝の気持ちを育てる。

(2) 活動の実際

①米作り体験(5・6学年)

学習田において、地域の方々や保護者とともに、田起しから田植え、稲刈り、はさ掛け、脱穀までの作業を行い、米づくりの1年を体験した。



②販売準備と地域の地産直売所での販売(5学年)

収穫した米を「湯尾米」と名付け、販売するときの米袋(1kg用)のラベル作りから袋詰め、はっぴ作りを児童がアイデアを出し合いながら進めた。11月の学習発表会のときに、チラシを配りながら大きな声でアピールを行った。



(様式3)

地区の地産直売所(直売所D51)において、児童による米の陳列、PRと販売、精算などにより約80袋を販売。地域の方が販売を楽しみに待っていてくださり、元気な売り子(児童)の声に誘われて20分ほどで完売した。

③授業参観日での「感謝会」の運営(5学年)

2月22日(土)の「感謝会」において、これまで米作りや販売などでお世話になった地域の方々をお招きして、「おもてなし」と「昔遊び」を行った。児童は、「おもてなし」として、収穫した「湯尾米」を使って、玄米茶、五平餅、お米のムースを手作りし、味わって



いただいた。試作品を作って改良を重ね、当日は、おいしく食べていただくことができた。また、一緒に「昔遊び」をすることで、楽しい時間を過ごし、感謝の気持ちを伝えることができた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

今年度も「地域と進める体験推進事業」の年間計画の立案時におけるサポート、学習田での作業時におけるボランティアへの声かけとゲストティーチャーの紹介や総括として協力していただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・これまでも本校で実施してきた学習田での米作りに加えて、児童たちが自分たちで考えて企画し、相談しながら行動して、かつ達成感が味わえるような活動になるようにした。特に、「湯尾米」の販売準備においては、児童が楽しみながら活動できるように、幟旗のデザインを考えたりはっぴを自作したりした。
- ・お世話になった方々にお越し頂き、「感謝会」を開くことで、お世話になった方への感謝の気持ちを伝えることの大切さを実感できるようにした。

(5) 成果と課題

- ・地域の方々やPTAの方々と一緒に汗を流し、昔の稲作の技を教えていただく中で、地域の方や友達との繋がりを深めることができた。稲刈りやはさ掛け、脱穀の際に、地域の方から「稲が落ちているから拾って。一本でも大事にしてよ。」と声をかけていただくことで、ものを大切にする心が育つ機会となった。
- ・日頃お世話になっている地域の方々に感謝する心を養うことができた。
- ・児童が自分たちで企画・運営し、積極的に活動する中で、達成感を味わうことができた。